

学力向上のための授業改善推進プラン・沼島市立武蔵野小学校

6 年

教科	本校児童の学力の実態	実態から身につけさせたい「確かな学力」	学年で取り組む具体的な方策	評価
国語	＜学力テストの結果＞（東京都平均正答率との比較） 知識・技能(▼-7)思考・判断・表現(▼-4)選択問題(▼-4)記述問題(▼-6)《領域別》話すこと・聞くこと(▼-2)書くこと(▼-9)読むこと(▼-4) ○話すこと・聞くことについては、平均正答率が全国や東京都と同じくらいの数値である。 ▲書くことについて平均正答率がかなり下回っており、既習の漢字を使って文章を書くことに課題がある。	・倫理的に書きたい事柄を順序立てて書く力 ・文脈を読み取り問題を読み解く力 ・課題に対する自分の考えをもち、書き表す力。	・宿題や朝学習で繰り返し練習をし、漢字の定着を図る。 ・授業の中で書く活動を多く取り入れ、書くことに慣れさせる。 ・様々な教科での活動や行事等での振り返りの習慣化 ・書く視点を明確にし、苦手な児童も書く内容がはっきり分かるようにする。	
社会	公民・知識・技能 81点 思考・判断・表現 72点 歴史・知識・技能 92点 思考・判断・表現 68点 ○歴史の分野に対して興味・関心があり意欲的に授業に取り組むことができる。 ○写真や資料から気付いたことや分かったことを自分の言葉でノートに表現することができる。 ▲歴史の分野では、知識・技能と思考・判断・表現の差が大きく社会的現象の理由や根拠について理解は低いことが課題である。	・歴史分野での社会的事象の系統性やながれを教科書や資料から読み取り想像する力 ・昔の時代の中での社会的な課題を把握し、解決に向けての自分の意見を伝える力。	・ICTや写真、資料を駆使して視覚的に情報を届けていく。 ・その時代が今とどれくらい違うのか予想や疑問を持たせてから学習の展開に入るようにしていく。 ・まとめ＆振り返りプリントを活用し、その授業で何を学んだのかを自分で一つもう一度整理させ、内容理解を促進する。	
算数	＜学力テストの結果＞（東京都平均正答率との比較） 知識・技能(▼-8)思考・判断・表現(▼-13)選択問題(▼-6)記述問題(▼-19)《領域別》数と計算(▼-10)「図形」(▼-12)「変化と関係」(▼-9)「データの活用」(▼-7) ○課題を解決しようと、友達と教え合う様子が伺える。 ▲文章問題を解く力が二極化しており、基礎・基本の定着が課題。	・計算問題などを正確に解く力 ・文章問題の内容を読み取り、正しく問題を解く力	・宿題や朝学習で繰り返し計算練習を行う。 ・教え合いの時間などを確保し、一人一人の学習内容の理解を深める。	
理科	○観察や実験に興味をもち、取り組むことができる。 ▲新しく出会う用語や実験方法など学習の定着に課題がある。 ▲自ら課題意識をもって、問題解決しようとする学習の取り組み方が定着しておらず、主体的に取り組もうとする姿勢に課題が見られる。	・身近なことや生活経験を振り返り、実験の予想や仮説を立てる力 ・主体的に課題を捉え、解決しようする力 ・課題解決に向けての思考・判断・表現力	・実験前に仮説や予想を立てさせる。 ・実験後に自分の言葉で考察を書かせ、実験の振り返りを行う。 ・何を学ぶか、どう学ぶかの視点から考えさせていくことで、学びに対する主体性を育ませていく。	
音楽	○自分達の演奏を聴いて、課題点を見つけて、演奏をよりよくしていくことができる。 ▲学習意欲や歌唱・器楽の技能の差が大きい。	・粘り強く学習に取り組む力 ・分からないことを解決していく力	・自分や友達が頑張っていたことを共有する時間を設定し、互いに認め合う雰囲気づくりをする。 ・音楽が苦手な児童用と得意な児童用の楽譜を用意するなど、個々に適した目標を設定できるようにし、目標を達成できた経験を増やしていく。 ・分からない時にどうしたらよいか課題解決法を考える時間を設定する。	
図工	○その子なりのベースや能力で、のびのびと自由に楽しんで表現活動を行うことができる。 ○お互いの作品を認め合うことができる ▲定期的な励ましや声掛けがないと、作品への意欲が続かなかつたり、分からないことを分からないままにしてしまう児童も見られる。	・作品をよりよくしようと創意工夫していく力 ・話を聞く、理解する、分からないことは質問して解決するなど の学習に向かう力 ・集中力	・じっくり取り組む作品(8時間～)、短時間で完結する作品(2～4時間)のめりばりをつけた課題設定をし、集中力の持続を促していく。 ・鑑賞会をして、お互いの作品を褒めあい、褒めて次回作品への意欲を高める。 ・映像、写真、ワークシートの活用など、児童への説明をシミュレーションで分かったり、視覚的な要素を入れて理解を深める。	
家庭科	○調理実習や洗濯の実習に意欲的に取り組む ○班のメンバーと励まし合い教え合いながら実習を行うことができる。 ▲調理の手順や準備するものなどを確認する事前授業や座学では、意欲的に活動する児童が少ない。	・集中力 ・実生活で習ったことを授業内で生かしたり実習で習ったことを家庭内で生かしたりする力。	・ICTを活用して、実習等における必要な情報や知識を集め、過程や振り返りを写真を用いて発表を発表を行う。 ・自分で調べたりして実習前にこんな風にできたらいという目標をしっかりと設定する時間をつくる。	
体育	○陸上領域・器械運動領域ではそれぞれが意欲的に取り組むことができる。 ○できる児童が苦手な児童に教え、互いに高め合おうとする姿勢が見られる。 ▲ボール運動領域では、チームで協力して取り組むことが課題となる児童や、勝敗を受け入れ、次へ生かすための切り替えができない児童が見られる。	・課題発見能力(運動技能や思考に関する課題を発見する力) ・課題解決能力(課題に対してどのように解決するか考え、実践する力) ・生涯にわたって運動やスポーツに親しむための身体能力 「短時間で集中的に力を発揮する身体能力」、「持続的に力を発揮する身体能力」、「柔軟性を発揮する身体能力」、「巧みに身体を動かす身体能力」	・動画や静止画像等、ICTを活用させ、お手本の動きや自分の動きを視覚的に捉えさせる。 ・単元を通してのゴール像を明確にもたせ、ゴール像に迫るためのPDCAサイクルを充実させる。 ・形成的評価を積極的にし、学習に向かう姿勢を育めるようにする。 ・体育の見方・考え方を働かせ、「見る・見る・支える・知る」の視点をふんだんの授業の中で意識付け、授業への学び方を理解させる。	